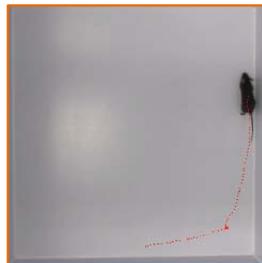
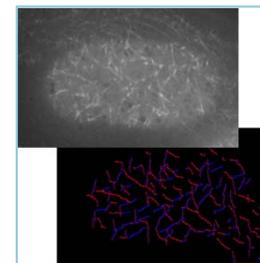




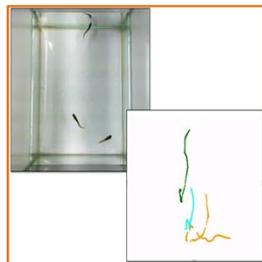
イメージング結果の画像処理による、生命現象の定量化および知識発見について支援致します。画像処理と一言で言っても、対象の性質と真の解析目的を見極める必要があります。ImageJなどの既存汎用ソフトウェアを使う場合にも、一般に複数の処理を段階的に組み合わせて実施する必要がありますし、またパラメータに関する知見も必要です。これらの点について画像情報学の専門家としてアドバイスが可能です。なお、支援内容によっては、目的に特化した手法を一からデザインし、その上でソフトウェアを新たに実装する必要が生じるケースもあります。この場合、支援のレベルを一段深め、共同研究に切り替えていただくことで、対応できる可能性もあります。まずはご相談ください。



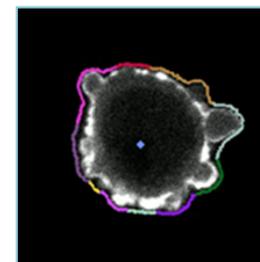
物体追跡は、バイオイメージ解析の頻出課題です。シンプルな処理でも十分実用に耐えるケースもあります。  
(左図：北大・鈴木教授との(マウス挙動解析に関する)共同研究)



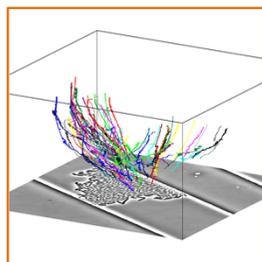
画像中の対象検出も頻出課題の一つです。対象の形状や輝度分布によって使うべき手法が大きく異なります。  
(左図：遺伝研・木村教授との(細胞質流動に関する)共同研究)



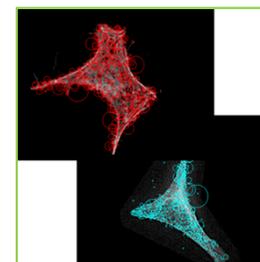
多物体を追跡する場合、一般に問題は急激に困難になります。実験条件を再考することで緩和できる場合もあります。  
(左図：基生研・渡辺准教授との(メダカ追跡に関する)共同研究)



対象の形状解析は、検出と記述という複合的な課題です。やはり形状に応じた解析指針および手法を考える必要があります。  
(左図：九大・池ノ内准教授との(Bleb解析に関する)共同研究)



対象が分裂増殖すればさらに追跡困難になります。このように対象追跡には幾つかのレベルがあります。ご相談ください。  
(左図：九大・花井准教授との(大腸菌追跡に関する)共同研究)



正常異常の区別や特定部位の同定に必要な、画像認識についても支援可能です。機械学習や特徴抽出についてもアドバイスできます。